

2020年度 学校評価報告書(学校自己評価)

学校自己評価(4段階評価)		A:達成度が高い		B:概ね達成している		C:課題を残している		D:速やかな改善が必要である	
学校経営計画				学校自己評価					
分掌・委員会	項目	目標・課題	取り組み・実施計画	優先度 (高・中・低)	実施評価 (A~D)	到達度合いの評価方法 (数値・回数、アンケート結果等)	到達度(今年度の成果) *赤字で訂正		
委員会	教育改善	教職員の研修の充実	魅力ある学校を目指して、教育内容の充実と教職員の資質向上をはかる。	今後の教育における課題についてプロジェクトチームを作り研究会を開催していきながら、開催される全体への研修の数を増やす。	高	A	ICT研修を最低週1回実施(～9月末)	4月中旬からのオンライン授業開始に対応するために、日々ICT研修を行い、全校体制でのオンライン授業を実施した。その実績から、入試前のオンライン授業を計画している。また、オンライン保護者会などを実施することで参加者が大きく増えた。	
		国際バカロレア(MYP)	認定	国際バカロレア(MYP)の認定を受ける	・2020年8月に認定校申請書を提出する。 ・2021年2月～3月にIBOによる確認訪問を受ける。	高	A	申請書提出、認定訪問の実施	・8月申請書類提出完了 ・2021年1月認定訪問実施 ・IB委員長とサブジェクトリダーとのミーティングを週1回行い内容の充実を図っている
		授業・評価	授業と評価の質を向上させる。	・MYP教科担当者会、MYP推進チーム、IB運営委員会等を有機的に機能させ、カリキュラムの水平設計および垂直設計を行う。	高	A	週1回のIB運営委員会、IB委員長の各教科との打ち合わせを実施	定期的な会議と全体研修により、IB及び探究教育への理解が深まった。	
		生徒・保護者	生徒、保護者がMYPへの理解を深めるための取り組みを実施する。	・オリエンテーション、説明会等の実施 ・IB通信/HP等での定期的な情報発信	高	A	学期1回の通信発行、2学期実施の進路説明会でのIB教育の説明	オンラインを活用しながら全て実施できた	
		生徒活動	Service as Action(行動としての奉仕)とコミュニティプロジェクトの実践を推進する。	・ATLの伸長を軸とした指導計画をつくる。 ・Service as Actionやコミュニティプロジェクトにおける生徒の活動の場を広げる。 ・コミュニティプロジェクトの集大成となる場を設ける。	高	A	12月にコミュニティプロジェクトの実践発表会にむけての計画実行する	担任を中心にHRで進められている。12月にコミュニティプロジェクトの実践発表会の学校行事として実施予定。生徒の外部とのオンラインでの取り組みを実践できた	
		教員研修	教員研修を進める。	・IB公式ワークショップへの参加を推進する。 ・校内教員研修を定期的に行う。 ・他のIB(MYP)認定校から学ぶ機会をつくる。	高	A	月1回の研修を実施	計画通り実施できた	
教務部	教科指導	学習計画・学習内容	各コース・各級の縦のつながりを重視し、段階的にレベルアップを目指す。他者を巻き込む行動ができるような教授法を考える。	探究的な学びにより、生徒の思考が深まることに重点を置き、実践する。	高	A	週1回の教科会議やカリキュラム検討会議での情報共有と共通認識の確認	探究教育をテーマに研修を実施できた	
		学習内容の精選	授業の中で、生徒が主体的な行動ができる場面を増やす。	生徒の発表の場面を増やす。他者と巻き込む行動ができるようにする。	高	A	・週1回の教科主任会議で共通認識と振り返りを行う ・授業見学週間の実施	研修会の実施、授業見学週間設定	
		評価・指導方法の工夫・改善	各コース、各級の目標に合わせ、生徒の意識を高める評価法を作る。	それぞれにルーブリックを設け、生徒自身がメタ認知しながら、レベルアップができるような教授法の研鑽を積む。	高	A	週1回の教科主任会議で共通認識と振り返りを行う	計画通り実施できた	
		スキルの育成	将来、社会で必要とされるスキルを段階的に身につける。	シナジータイムやSDなど、探究的な活動を実践し、学年や経験値によって段階的に、スキルアップしていく。	高	A	探究委員会での実践報告と振り返り、探究の全体研修で研鑽を深める	計画通り実施できた	
		教務全般	生徒・保護者・塾から信頼される学校づくり	教員間での報告・連絡・相談を円滑に行い、連携をとる。・教員間のスキルアップのために教員研修を行う。	中	A	週1回の会議の活用と、探究の研修やIB研修において全体のスキルアップを図る	計画通り実施できた	
生徒指導部	生徒指導	組織的な生徒指導	年間計画に則して、生徒指導部員を中心に全教員で生徒指導を行う。	毎日の登校指導。学期ごとの服装・頭髪指導。日々の身だしなみ指導と挨拶指導。職員研修の実施。	高	A	・週1回の部会にて情報共有と学年へのフィードバック ・運営委員会での情報共有	・富雄駅での教員3人体制での指導をお行っている ・週1回の部会等にて情報共有と学年へのフィードバック	
		生徒会・各種委員会活動の活性化	中高の生徒会・各種委員会の交流を深め、組織の充実を図る。行事を通して、生徒の自主性や積極性を育む。	各種委員会、各行事で実行委員会を発足させ、主体的に行事運営をさせる。	高	A	・学校行事への生徒の主体的な参加を促す ・文化行事を中高分けて実施	・学校行事への生徒の主体的な参加は継続中 ・文化行事は中高分け形式を変更して実施	
		クラブ活動活性化	クラブ加入率を上げて活性化を図る。	部活動紹介。クラブ体験会。体育祭・文化祭で活動状況報告。	高	A	・顧問会議の実施 ・キャプテン会議の実施 ・形式を変えてクラブ紹介を実施	達成できた	
		学級活動・学級経営	なかまづくりを進める。協働学習や学校行事などを通して、他者を思いやり尊重する心を育む。縦のつながりを育成する。	新入生対象オリエンテーション合宿。中学生対象コミュニケーションワーク。教科や行事でクラスの絆をこえた活動を実施	高	B	・オリエンテーション合宿の実施 ・コミュニケーションワークの実施	・オリエンテーション合宿中止 ・コミュニケーションワークは、2学期以降で年間計画通りの回数を実施	
		教育相談・生徒理解及び指導	教員一人ひとりがカウンセラーであることを自覚し、実践する。学年主任を中心とした教育相談の体制づくり。	毎週月曜、火曜日にSC常駐。二者面談の実施。精神科医による教育相談を年4回実施。中学C/Wを実施。	高	A	・1学期はオンラインや電話でのカウンセリングを実施 ・教育相談の実施	・1学期はオンラインや電話でのカウンセリングを実施 ・教育相談は計画通り実施できている	
		問題行動に対する指導	問題事象を起こさせない事前の積極的な指導。学校全体で共通した方針で一貫した指導を行う。	生徒指導部を中心に情報共有。必要に応じて関係委員会など、学年・分掌をこえた体制で指導に臨む。	高	A	学年会・部会などで情報共有し、事象によっては臨時会議で対応を検討	会議で情報共有等をおこない、教師の経験不足からくる指導の違いを補いつつ対応することが出来た	
		家庭との連携	家庭との協力体制を構築する。	三者面談での情報共有。必要に応じて家庭訪問を実施。	高	A	電話連絡、家庭訪問	電話連絡、家庭訪問を実施している	
		関係諸機関との連携	家庭との協力体制を構築する。	携帯教室の開催。警察等の情報交換会に参加。	高	B	コロナウイルス感染拡大のため計画時期を変更して計画実施	コロナウイルス感染拡大のため計画通りできなかった。学年単位で実施	
人権教育	人権教育	人権教育指導計画の立案	教職員がみずから人権についての知識と認識を深め、自らに問ひかける。あらゆる差別を見抜き、それに立ち向かうことの出来る集団を育てる。	6年間での段階的な人権教育を見据えた、年間人権HR計画の立案、実施。	高	B	コロナウイルス感染拡大のため計画時期を変更して計画実施	コロナウイルス感染拡大のため計画通りできなかった為、学級単位でコロナウイルス感染に関する人権教育を実施した。	
		学習内容の精選	LHRでの人権学習の計画指導を充実させ、教育活動を通しての人権教育を推進する。人権尊重の意識を育て、差別や不正義を許さない人格を育てる。	学年・学級での人権教育活動の充実。	高	B	コロナウイルス感染に対する理解を深める指導計画	コロナウイルス感染に対する理解を同じにすることが必要。再検討していく。	
		指導方法の工夫改善	互いを支え合う学級集団作りを通して、社会や自己がもつ差別を見抜く力をつける。	校外での研究会での情報共有。	高	C	コロナ禍において校外での研修実施が難しい中、内容を変更して実施計画を検討	4月中旬からのオンライン授業開始に対応するために、ICT研修を頻繁に行い、全校体制でのオンライン授業を実施することが出来た。	
特別支援	特別支援	組織的な特別支援教育の体制作り	発達障害を含む障害のある生徒や、心因性疾患等により、日常の学習活動が困難な生徒の自立社会参加に向けた主体的な取り組みを行う。	SCIによる職員研修会の実施。特別支援委員会の開催。	高	A	・SC通信の発行(メンタルケア含) ・学期1回以上の特別支援委員会の開催	実施できた	
		保健管理	心のケアや健康相談体制の整備	・予防的療育、治療的支援の両面から個に寄り添った相談活動 ・新型コロナウイルス感染症に関わるストレスの軽減	平尾文雄Dr(精神科医)のスーパーバイズを年間4回、平野美紗先生(カウンセラー)の日常の相談活動を毎週月曜の2日実施。各クラスで取り組めるリラクゼーション、ワークの情報提供	高	A	・計画通り進めている ・SC通信での個人が取り組めるリラクゼーション方法配信	実施できた
		健康観察・健康管理能力の育成	・自らの健康は自ら守り維持する意識と実践力の育成 ・新型コロナウイルス感染症予防実践力の育成	毎朝の健康チェック(検温・問診項目に答える)。感染症拡大防止教育のための情報提供。校内予防対策、衛生設備の充実を図る。	高	A	・検温チェックの実施・保健委員会による生徒主体のコロナ対策の啓蒙活動実施	・生徒の主体的な取り組みに発展 ・医師からの助言	
関係機関との連携	関係機関との連携	・各科学校医、学校薬剤師との連携 ・県保健体育課、市保健所との連携	通常の生徒の健康診断、健康管理に加えて、新型コロナウイルス感染症対策についての緊密に情報共有を行い、指導助言を仰ぐ。近隣地域の状況把握に努める。	高	A	・関係機関との連携 ・生徒の主体的な学びに繋げる	関係機関(医療機関)にアドバイスを受け、保健委員会の活動の一環で、「コロナ対応」を各クラス単位でプレゼンを行い、生徒の主体的な学びとして行った。		

	安全管理	学校安全・防災計画の立案	危機管理マニュアルの共通理解。フードバック。	学期ごとの安全点検。年2回の防災訓練。コロナ感染の対策・実施	高	B	3密を避けて実施する	3密を避けて1回実施した
		危機管理体制の整備	危機管理マニュアルの共通理解。フードバック。	学校安全計画の作成。臨時・コロナ感染の対策と実施	高	B	ガイドラインの変更に伴い、対応に時間がかかった。	十分ではない
進路指導	進路指導	組織的な進路指導	・クラス担任を中心に縦のつながりを意識したチームを形成し、卒業までを見据えた連続性のある指導をする。 ・授業をはじめ、すべての教育活動において探究を軸として実践する。 ・何事においても、目標と到達点を明らかにして実践する。 ・各教育活動について、実行・分析・改善のサイクルを常に意識する。	・コース会議の実施し、連絡を密にとり、新しいことを積極的に進める。 ・LHR計画をコースごとに立案する。 ・探究教育全般を把握する。 ・探究教育の「身につけたい力」を明らかにする。 ・各実践後の振り返りを徹底し、分析・改善に努める。	高	A	探究的な学びを学校全体の取り組みとするために、各種委員会等での共有認識を図りつつ、生徒主体の学びとして実施する。	週に1回3学年揃ってコース会議を実施する事で、取り組みの振り替えりと今後の取り組みをブラッシュアップして進めることが出来た。また、探究的な学びとして、生徒が外部機関と繋がる学びを進めることが出来た。
		家庭との連携	・HR活動において、身につけたい力を明らかにする。 ・保護者説明会や三者面談等にて、積極的に学校から情報提供し、家庭の声も収集する。	・LHR計画をコースごとに立案する。 ・HR活動は探究であると位置づける。 ・オンラインでの進路説明会の実施。 ・家庭との接続を担当が窓口となり細やかに対応する。	高	A	全て計画通りに進めることが出来た。	オンライン説明会は、例年以上の参加者であった。
		指導方法の工夫	・コースごとに独自性を強く意識した教育活動を実践する。 ・新しい大学入試を見据え、思考力を身につける指導を主体として実践する。 ・高い教育効果を生むために、ICT環境を積極的に用いて実践する。 ・第一志望の大学へ進学させる指導をする。	・コース会議の実施し、連絡を密にとり、新しいことを積極的に進める。 ・インタラクティブな授業を展開する。 ・オンライン授業を展開する。 ・志望理由書を作成する講座を開講する。 ・小論文を書く力を養成する教材を導入する。	高	A	全て計画通りに進めることが出来た。	週に1回3学年揃ってコース会議を実施する事で、3年間の見直しを持って実施計画を立てることが出来た。また、取り組みの振り替えりと今後の取り組みをブラッシュアップして進めることが出来た。
		関係機関との連携	・海外大学進学、国際交流、海外研修だけでなく、すべての教育活動においてグローバルな視点を持ち実践する。 ・関西大学、近畿大学をはじめとする協定校や、様々な大学との接続を意識した活動を活発にする。	・海外大学進学説明会を実施する。 ・グローバル講演会を実施する。 ・生徒の国際貢献活動への参加を促す情報を提供する。 ・国際交流を積極的に進める。 ・出前講義を実施する。	高	A	オンラインを活用しながら全て実施した。ただ、大学訪問は、オンラインでの実施も出来なかった。	中学1年から高校3年生までの参加者があり、予想を超えた参加者であった。(毎回20名以上)
入試広報部	生徒募集	受験生・入学生の確保	・中学、高校共に各コースで定員充足率100%をみぞす	・学外関連機関及び学習塾などから現状をヒヤリングし、情報収集・分析的確に行う ・コースの特徴を明確化し、安定した定員充足を図る	高	A	・学校訪問、塾訪問は可能な限り実施	・学校訪問・塾訪問を実施 ・外部の学校見学もできる範囲内で受け入れた ・コロナ禍においての実施となったため、参加人数の制限を設けなければならなかったが、それにも関わらず、入試関連行事の参加数は昨年度を上回った。
		学校広報	効果的な広報活動	・入試広報部を中心に、校外での広報活動を充実させ、学校の認知度を高める ・生徒実行委員会と連携し、オープンスクール等の行事を通し、学校の魅力を外部へ発信する	・ホームページ、スクールガイドなど、充実した広報ツールの作成 ・入試広報部員による校外での広報活動を強化し、奈良県のみならず、大阪など県外へも活動を広げる ・生徒実行委員会を主体とした学校説明会の運営	高	A	・6月スクールガイド作成 ・実行委員による生徒主体の入試説明会の実施
企画広報部	家庭地域との連携	学校情報の発信	メディアやさまざまな媒体への積極的な情報発信をする。	学校新聞・HPなどにより、積極的に情報を発信していく。積極的な生徒の参画を行う。	高	A	行事ごとのHP発信	・行事の配信は随時行った ・実行委員会の活動を人数制限し行って行った
		行事授業等の公開	学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う。	保護者や地域の人に可能な限り広報して本校を知ってもらおう機会にする。	高	B	・コロナウイルス感染拡大の影響により予定を変更して実施 ・地域への公開は実施できなかった ・授業参観のみ実施	・コロナウイルス感染拡大の影響により予定を変更して実施 ・地域への公開は実施できなかった ・中高1年生のみ授業参観実施
		育西会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう。	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。	高	A	行事への参加	行事が実施できない中、育西会の提案により保護者の文化祭参加が実現できた
組織運営		学校経営計画	年度当初に教育理念・学校経営方針を提示し、教職員相互に共通理解をはかる。	学園経営状況を把握し、本校の特色ある教育活動を推し進めつつ、外部発信し、募集へとつなげる。	高	A	募集活動を行う中で、本校の特色ある教育実践を発信する	4月中旬からのオンライン授業実施 ・入試説明会のオンライン開催
		分掌間の連携	本校の教育を進めるために、分掌長の連携を密にし実践していく。	分掌長を核として、運営委員会での連携を密にしていく。	高	A	毎週1回実施	実施できている
		教職員間の連携強化	分掌・学年・教科等の会議等により教職員間の連携を深める。	学年主任・分掌長のリーダーシップにより、教職員間の連携を強化しつつ、教育改善に努める。	高	A	今年度からの週に1回のコース会議を実施していることで効果的に進められている。	実施できている
		教職員研修会の実施	教員の資質向上をはかる。	教育改革の方向性に基づいた、校内研修の実施と校外での研修への積極的な参加を計画的におこなう。	高	B	校外での計画的にしていた研修が出来なかった。	・校外での計画的にしていた研修が出来なかった ・校内においては計画通り実施
施設設備管理		施設の管理	教室等の施設、火元管理、整理整頓、備品管理、美化に努める。	各室の管理責任者との確認。学校全体で省エネに対する意識を高める。	高	A	定期的な点検の実施	定期的な点検に伴い、修繕や購入などを行った
		学校に関する情報提供	学校評価(学校自己評価等)の結果を公表する。	学校評価に関して、保護者には文章とHPにて公表する。	高	A	HP掲載と保護者へのフィードバック	学内の取り組みとHPアップ
		文書管理徹底	学校関係書類の情報開示にむけて、文書管理を徹底する。	管理の徹底。1年に1度の点検の実施。	高	A	日々の注意喚起	週1回の部長会・運営委員会の機会を活用して周知徹底している